

2008年10月30日

苫小牧市長
岩倉博文様

北海道平和運動フォーラム
代表 箱山富美子
代表 江本秀春
代表 山田剛

平和運動フォーラム日胆地域協議会
代表 松坂正治

申入書

日頃から住民の生活安定・向上に向けご奮闘されていることに対し心より敬意を表します。今年8月、貴市は、米海軍艦船「フォード」の寄港に関して、苫小牧市非核平和都市条例第5条に基づき、核兵器搭載の有無についての「外務省」及び「在札幌米国総領事館」の回答により判断をすとしたものの、「核の持ち込みについての事前協議が行われていない」ことを根拠に残念ながら受け入れの判断を行いました。「事前協議がない以上、核の持ち込みはなかった」は、「非核三原則」を国是とする日本において、米軍の核持ち込みを黙認し、国民を欺く外務省の詭弁と言わざるを得ません。私たちは、市民の安全を保障すべき貴市には、国に追随することなく、断固として米国に核兵器搭載の有無を明らかにさせる毅然とした態度を求めるものです。

さて今回、米海軍第7艦隊所属の誘導ミサイルフリゲート艦「ルーベン・ジェームズ」が苫小牧港へ寄港したい旨、打診があったことが明らかになりました。米海軍は、寄港目的を「友好・親善」としているものの、8月に中止せざるを得なかった「フォード」に代わり、苫小牧港の軍港化への下準備を行うことを目論むものであることは明白です。こうした動きは、政府が自衛隊と米軍が一体となって「戦争をする国」をめざし、日本全土をいつでも米軍の基地として利用できるよう調査し、準備するという狙いをもつものです。度重なる米軍艦船の寄港は、苫小牧港を米軍が自由に出入りできる軍港とする意図を持つものであり、核兵器の搭載の有無とかかわりなく市民の平和と安全を脅かすものです。私たちは、このような狙いをもつ米軍艦船の寄港には激しい憤りを感じるとともに、貴市が寄港を拒否することを強く求めるものです。

そこで、次の点について申し入れを行いますので、ご回答ください。

記

- 1 今回の寄港を許可しないよう求めます。
- 2 私たちは、「日米地位協定5条」には、通告だけで自由に寄港できるとの定めはなく、寄港を許可するか否かの判断はあくまでも港湾管理権を持つ苫小牧市長であると理解していますが、貴市の見解を求めます。
- 3 米海軍艦船の核兵器搭載の有無については、「事前協議の有無」に依ることなく、あくまでも米海軍による明確な回答及び日本国政府や貴市による検査により明らかにすべきものと考えますが、貴市の見解を求めます。

以上